

非核・平和宣言都市

核兵器の廃絶と平和を願う全ての人々と相携えて行動することを決意し、平成18年5月25日、『非核・平和都市』宣言を行い、『日本非核宣言自治体協議会』に加入しました。

平和市長会議への加盟

平成22年1月1日に『核兵器廃絶に向けての都市連帯推進計画』に賛同する世界各国の都市で構成されている平和市長会議に加盟しています。

香美市戦没者追悼式

香美市では、毎年、戦没者の追悼式を行っています。今年は、5月12日に中央公民館で行いました。

参列者らは、戦争の悲惨さと平和の尊さを未来へと語り継ぎ、心豊かな社会を築いていくことを改めて誓い、戦争で尊い命を落とされた方々のご冥福を祈りました。



ヒロシマ・ナガサキ被爆ポスター展

8月1日～31日まで、市役所1階ロビー・香北支所・物部支所で『ヒロシマ・ナガサキ被爆の実相等に関するポスター展』を開催します。

黙とうをささげましょう

広島市原爆投下時刻
8月6日午前8時15分
長崎市原爆投下時刻
8月9日午前11時2分
終戦記念日
8月15日正午

忘れてはいけない出来事

5月12日に行われた香美市戦没者追悼式で、香北中学校2年・萩野真央さんが朗読した作文をご紹介します。



私は、『戦争』というものについて、『忘れてはいけない出来事』と思います。その理由は、8月15日、日本は71回目の終戦記念日を迎え、『戦没者追悼式』が行われました。私は、その様子をニュースで拝見しました。

その様子は、インタビューに答える遺族や被爆者の方々が「もう、このようなことを二度と繰り返してはいけない」と、この式に来るたびに思います。「やはり、この式に出ると、戦争当時のことを思い出します」と、涙ぐんで述べていました。

私はその様子を観て、ひどく悲しくなりました。インタビューに答えた方と同じ気持ちになりました。だから、私は、この気持ちを忘れてはいけない。『戦争』を忘れてはいけない』と思います。

先日、学校で平和集会が行われ、全校で『永遠のゼロ』という戦争当時のことを描いた、映画を観ました。その映画では、人と人が武器を使って殺し合い、当たり前のようにそれを喜ぶという光景や、国のために自ら『戦死』を志願して入るようなものの『特攻隊』、愛する家族のことだけを思って、戦う主人公の姿。感動はしましたが、これが昔の現実だったんだと思うと、胸が痛くなりました。私はこの映画で、戦争の残酷さを目に焼きつけました。また、2つのことを思い出しました。1つ目は、小学6年生の修学旅行で行った『広島平和記念資料館』で見た、焼けてポロポロになった服や、見ることを拒んでしまうくらいの衝撃的な写真を思い出しました。私は記念館で、この時代に生まれなくてよかったと心の底から思ったのを覚えています。でも私は、そんな時代を生きたご先祖様がいたからこそ、今の私があると思います。私はそれを家の裏にある、たくさんのご先祖様たちのお墓を見るたびに思い出し、実感します。

2つ目は、祖父のことで、私は小学2年生まで祖父に育てられました。一緒に暮らしている中で、祖父

亡くなりました。そのときのお兄さんたちの気持ちを考えると、きっと私が思っているより、ずっと苦しかっただろうし、もっと早く移住していれば、なぜ自分が、という悔しさもあつたと思います。

祖父の家族は『移住』によって『生』と『死』が分かれ、移住してなければ、戦場で兵士として戦うことになつていたかもしれなかったんです。

私は、この事実を聞いて祖父の兄や兄弟、祖父の親に感謝したいと思いました。

ぶという光景や、国のために自ら『戦死』を志願して入るようなものの『特攻隊』、愛する家族のことだけを思って、戦う主人公の姿。感動はしましたが、これが昔の現実だったんだと思うと、胸が痛くなりました。私はこの映画で、戦争の残酷さを目に焼きつけました。また、2つのことを思い出しました。1つ目は、小学6年生の修学旅行で行った『広島平和記念資料館』で見た、焼けてポロポロになった服や、見ることを拒んでしまうくらいの衝撃的な写真を思い出しました。私は記念館で、この時代に生まれなくてよかったと心の底から思ったのを覚えています。でも私は、そんな時代を生きたご先祖様がいたからこそ、今の私があると思います。私はそれを家の裏にある、たくさんのご先祖様たちのお墓を見るたびに思い出し、実感します。

2つ目は、祖父のことで、私は小学2年生まで祖父に育てられました。一緒に暮らしている中で、祖父

その理由は、その人たちがおかげで、今がある。今の私があると思うからです。また、戦没者の『死』があったから、日本は戦争がない国になったんだと思います。

でも、やはり戦争でたくさんの方が亡くなったことはとても悲しいことです。戦争の話聞かせてくれた祖父は、もういません。祖父のように『戦争を経験した人』はいなくなりました。だから、戦死者の『死』を無駄にしないために、祖父が私に伝えてくれたように、子孫に伝えることが

は私に戦争当時のことを語ってくれました。祖父は、「おじいちゃん、昔は8人兄弟だったんだよ」と言いました。幼かった私は、そのときはあまりよくわかりませんでした。ですが、小学4年生の時、国語で習った『一つの花』がきっかけで、あの時わからなかった話を聞こうと思ひ、祖父の元に向かいました。

大切だと思ひます。戦後、71年が経過し、戦争体験者も高齢になった今こそ、戦争体験者の体験談を聞き、後世に伝えていくことが、今を生きている日本人のすべきことだと思ひます。

私は、戦争という悲惨で愚かな失敗を二度と繰り返さないためにも、戦争という出来事を忘れてほしくありません。

私も、祖父から聞いた戦争体験談をみんなに伝え、戦争のない平和な社会が続くように微力ながら努力していきたいと思ひます。

(香北中2年・萩野真央)

話を聞くと、祖父は8人兄弟で3人のお兄さんを戦争で亡くしました。祖父や祖父の親、他の兄弟は運よく、日本領土だった樺太(サハリン)に移住していたため、戦争にかり出されませんでした。

しかし、3人の兄は移住するタイミングを逃して、国からの命令で兵士にさせられ、国のために戦って、



▲参列した遺族の前で作文を朗読する萩野さん